

カンボジアにある児童養護施設「HOC」の支援を軸に、子どもたちのために活動する「NPOかけはし」。枇杷島の保健師、富岡ひとみさん(43)が会社

員の坂本雅史さん(49)と、昨年3月に設立しました。児童支援施設に菓子を届ける「サンタクロース活動」や子ども食堂への寄付、音楽会、食育イベントを実施。理事



理事やボランティアメンバー



サンタクロース活動

# 誰もが懸け橋に

## 循環支援目指すNPO

富岡さんは「将来は子どもたちに引き継ぎたい。持続可能な活動を『目指す』と話します。HOCでは、富岡さんと坂本さん共通の友人である岩田亮子さんが、

「サンタクロース活動」や子ども食堂への寄付、音楽会、食育イベントを実施。理事や小学生から大学生までのサポーター、ボランティアが企画運営に携わります。富岡さんは「将来は子どもたちに引き継ぎたい。持続可能な活動を『目指す』と話します。」

日本人マザーとして活躍しています。2009年にカンボジアへ移住し、孤児らを支援。寄付のお礼行脚で来日する際は「夢や希望を持つきっかけに」と、施設の子どもを連れて来ます。2人は岩田さんの活動に感銘し「名古屋の拠点に」と「かけはし」をつくりました。

チョコレートのパッケージにHOCの子どもが描いた絵を施す「チョコノワプロジェクト」にも参加。チョコを購入すると売上の一部がHOCなどに寄付される仕組みです。

かけはしが目指すのは一方的な支援ではなく「循環支援」。12月にサンタクロース活動で訪れた児童支援施設「ふれんず岩倉」では、子どもたちが描いた絵を缶



チョコノワプロジェクトの商品

パツに仕立て、同施設に買い取ってもらい、売上金をHOCなどに寄付しました。このようにかけはしの支援商品を購入してもらい、互いに支援し合います。「誰もが誰かの夢の『かけはし』になれると伝え、笑顔をつないでいきたい」

<https://www.npokakehashi.org>